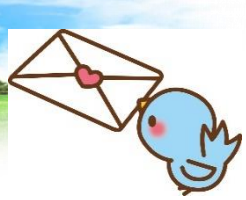
第7号 2019年3月

# 山口大学 学生特別支援室だより

News Letter



## 学生特別支援室カウンセラーのお仕事紹介

学生特別支援室（SSR）でカウンセラーのお仕事をされている田中亜矢巳先生にインタビューを行いました。

田中先生は、SSRでカウンセラーとして、障害等のある学生の相談対応を行っておられます。お仕事のやりがいや相談対応の実態、大学内の他部署のカウンセラーの方々との連携などについて、インタビューを行いました。

SSR田中カウンセラーにインタビューしました！

### SSRのカウンセリングは「修学支援」がメイン

カウンセラーのお仕事は相談者のお話を聞いて、考えていることや、何をしたいのか、何をしてほしいのかを整理することです。

SSRでのカウンセリングは修学支援をメインに行っており、一般的なカウンセリングやセラピーのイメージとは少し異なるかもしれません。

具体的には、定期面談を中心に、授業や試験のスケジュールの確認、レポート等の提出状況、授業中の配慮状況などを確認して、修学上の困難さへの対策を講じています。

### カウンセリング業務のやりがい

相談者とコミュニケーションを取る中で、相談者本人が問題点と解決方法に気づくことができるようにサポートすることです。考え方を押し付けることは決してせずに、会話を通して、相談者が客観的な視点を持ち、考え方を広げることができるようになることを大切にしています。また、学部・学科によってカリキュラムの違いがあるので、相談者ひとりひとりに合わせたカウンセリングを行うことが難しくもあり、やりがいでもあります。

### 他部署のカウンセラーとの連携

学内にはSSRの他にも、学生相談所、保健管理センター、ダイバーシティ推進室にカウンセラーが配置されています。それぞれの部署がそれぞれの分野をメインにカウンセリングを行っていますが、必要に応じて互いに連携を取っています。本人の了承を得て情報を共有したり、連携して対応したりすることで、より充実したサポートができるようにしています。

### SSRの相談件数の増加と対応の状況

SSRの相談対応件数は年々増えており、相談者は学生だけでなく、保護者や教職員も含まれます。しかし、SSRで1日に対応できる面談数には限りがあります。そのため、自立の傾向が見られるようになれば、定期面談のスパンを開けるなどの工夫をして、よりカウンセリングを必要としている方と面談できるようにしています。

### 学生の皆さんに一言

最後までやりきる方法や自分のペースを見つけて、自分がつぶれずに、進み続けることができるようにすることが大事だと思います。目標を達成することも重要ですが、その過程もまた重要であると、学生の皆さん全員に心に留めておいてほしいと思っています。

小川先生に聞く

# 山口大学における障害学生支援のあゆみ

学生特別支援室の室長である小川勤先生（大学教育センター教授）は、長年にわたり、山口大学の障害等のある学生（障害学生）の支援に携わってこられました。
小川先生に、これまでの山口大学における障害学生支援の経緯を振返っていただきました。

## 平成20年頃～個別アライアンス対応の時代

ここがポイント！

- ✓ 支援が必要な学生の入学
- ✓ 関係者でアライアンスを組んで対応
- ✓ 周囲の理解啓発・支援スキルの向上

山口大学での障害学生支援が本格化するきっかけとなったのは10年ほど前のことです。
この時期、数年ごとに支援が必要な学生が入学して、関係者間でアライアンスを組んで対応するということを行いました。大学としては全く支援の経験が無かったため、広島大学や筑波技術大学等、支援の経験が豊富な大学から支援のノウハウの助言をもらったり、他大学から関係する情報を収集して回りました。

- ➢ 聴覚に障害のある学生の支援では、実験や実習での対応の経験のある方を学外から招いて支援方法を提案いただきました。また、聞こえない・聞こえにくいとはどういうことなのか、修学上何が困るのかを知る機会として、教職員FDを行って障害への理解を深めたり、ノートテイクの研修を行って支援スキルの向上を図りました。
- ➢ 発達障害のある学生が入学した時は、初回面談時から関わり、カミングアウトする場を調整したり、図書館の使い方を工夫するなどの対応をしました。
- ➢ 障害のある学生の状況を伝えるための授業中「配慮願」を作成し始めたのもこの時期です。他大学の支援の例を参考に作成し、授業担当の先生方に配布して対応を仰ぎました。
- ➢ この時対応した学生たちは、“愛されキャラ”だった様に思います。

このことは、結果的に周囲の理解の促進や支援の実施につながっていたかもしれません。

この時期は、現在のように障害のある学生の支援担当部署もなかったし、支援担当者も決まっていなかった。このような状況で、誰が支援を率先するのか考えた時に、共通教育を管轄する大学教育センター長とともに、リーダーシップを採る必要性を感じました。また、学生の所属学部の先生方も、検討・協議を重ねて丁寧に対応されていました。
支援体制というものは整備されていなかったけれど、個別の対応のために、所属学部や学生相談所、保健管理センターなどの関係者間での連携をするということで、それなりにうまく回っていました。
今思えば、この時期に支援が必要な障害学生のための対応を、学内の関係しそうな部署の方々と協力して実施していたことが、重要でした。この協力体制が、その後の支援の組織化につながったと思っています。

SSR室長 小川勤先生

## 平成25年～支援拠点の準備の時代 ： CSRの設置

ここがポイント！

- ✓ 平成25年～コミュニケーションサポートルーム（CSR）の設置
- ✓ カウンセラーの配置
- ✓ 発達障害を中心としたコミュニケーションが難しい学生の対応

上記の“個別アライアンス対応の時代”を経て、支援の拠点を作る必要があると考えていました。

- ➢ そこで、当時の大学教育センター長とともに、主に発達障害のある学生を対象とした支援の必要性を訴え、「コミュニケーションサポートルーム（CSR）」が設置されることとなりました。
- ➢ CSRでは、学内のニーズ調査と、コミュニケーションが難しい学生へのサポートを行っていました。
- ➢ CSRに配置されたのが、現在、学生特別支援室で活躍している田中カウンセラーです。
- ➢ 研究一号館の一階にあり、学生相談所も近くで、連携が取りやすかったと記憶しています。

CSRを設置したことにより、相談件数や支援ニーズなどの情報が集約化されてきました。
CSRの設置は、その後の全学的な支援体制の整備の礎となったといえます。

## 平成27年～ 法整備への対応と支援の組織化 ： SSRの立上げ

ここが
ポイント！

- ✓ 平成28年度～「障害者差別解消法」の施行
- ✓ 学生特別支援室（SSR）の設置・支援の組織化
- ✓ 多様な障害のある学生への対応の開始

CSRの時代から、発達障害・精神障害のある学生の人数は多い傾向にあることは把握していました。また、日本学生支援機構（JASSO）の情報などから、支援のための組織化を図る必要があることを認識していました。折しも平成28年度から「障害者差別解消法」が施行される時期です。国からの補助をうまく活用して、支援の組織化を図るチャンスでした。

- ➢ 平成27年6月 CSRを発展的に解消し、「学生特別支援室（SSR）」を設置
- ➢ SSR専任スタッフの配置（コーディネーター、カウンセラー、事務職員）
- ➢ 多様な障害のある学生への支援を想定した対応を開始
- ➢ 平成27年10月～「障害学生連絡会」の組織
- ➢ 平成28年度～　関連規則の制定、障害学生修学支援申請制度開始
- ➢ 平成29年度～　学生特別支援室 宇部分室設置

SSRの様子
（吉田キャンパス）

学生特別支援室が設置されてから、相談対応件数が急激に増加しています。障害等のある学生のニーズが顕著になってきたというだけでなく、困っている学生や、どう支援したら良いか分からない周囲の人々が多いということだと考えています。困っている学生や支援にかかわる教職員への対応が必要になっています。

## 今後の展開 ： 就労と連携

ここが
ポイント！

- ✓ 就労移行支援の実施
- ✓ 大学間連携の必要性
- ✓ 高大連携の取り組みの必要性

徐々にではありますが、学内に障害等のある学生への修学支援の仕組みが浸透してきました。

今後対応が必要になってくるのは、大学の出入り口でのスムーズな移行のための支援です。具体的には高校との接続（高大連携）・社会との接続のための支援（就労移行支援）だと考えています。

また、一大学だけで対応することが難しい課題も多いので、他大学や地域の支援機関との連携体制を整備していくことも重要です。学内外の担当部署・機関との連携が今後の展開のポイントになるでしょう。

## 障害学生支援に携わって －小川先生が思うこと－

- **「支援と教育の連動」**

　私は、山口大学で大学教育センターの業務と障害学生支援の業務、どちらにも関わってきました。一見直接関連しないように思える二つの業務ですが、教育の仕組みを考えることと支援の運用をすることは、パラレルに関わっていました。教育を提供する目的は何かということと、支援することで伝えたい情報は何かは重なるからです。立場的に、このパラレルで関連している二つの部署に関わっていたことは、支援の実施のしやすさに繋がったと思います。

　学外では、長年、JASSO（日本学生支援機構）が主催する障害学生支援の実務者を育成するための研修会の講師を引き受けてきました。この研修会は国の動向や全国的な潮流を把握する機会でもありました。こういった立場や機会を活かして、自分としては、支援のための制度設計をコーディネートすることができたと思っています。

- **「インパクトとしての“障害”」**

　アライアンス対応をしていた時期に、特に支援を必要としていた３名の学生への対応を丁寧に行ったことは、その後の支援体制の組織化の基盤となりました。支援を実施してきた経験は、大学の財産になります。現に、平成20年度前後に障害学生を受け入れた学部では、現在でも当時のノウハウを受け継いでいます。そういった意味では「障害」が持つ、世の中を変えるインパクトは大きいと感じています。

- **「良い種を撒く」**

　私が障害学生支援に関わるのは「困っている人を放っておけない」という至ってシンプルな理由からです。山口大学で障害学生の支援が始まった当初、関わっていた人々の中にも同じような思いがあったのではないでしょうか。

　障害学生支援を実施するうえではトラブルもありますが、最初は難しくても、みんなで話あっていればどうにかなる、たいてい何とかうまくいくと思っています。良い種を撒けば育つ。ゆくゆくは山口大学のためになると信じています。

# 平成30年度　SSR学生スタッフ活動報告会

平成31年2月6日(水)に平成30年度SSR学生スタッフの活動報告会を開催しました。
多くの教職員の方々にご出席いただき、学生スタッフ6名が代表し活動報告を行いました。

◆日時　　：　平成31年2月6日（水）14時00分～15時00分
◆開催場所：　共通教育棟15番教室
◆内容　　：・SSR学生スタッフの活動概要報告
・学内バリアフリー調査報告
・質疑応答

## バリアフリー調査報告

### 経済学部バリアフリー調査

●教室間のバリアフリー：多様な学生の利用を想定して、教室間の通行のしやすさ（特に各棟の間の出入口と渡り廊下）を確認し、移動しやすい箇所と通行が難しいと考えられる箇所を報告しました。
●教室内のバリアフリー：各教室の評価点と問題点及びその改善案について報告しました。調査では、各教室のバリアフリー状況として、入口幅・段差・車いすスペースの有無・電源やLAN等の設備の状況等をまとめました。

### 点字ブロック再調査

2年前の調査と比べて点字ブロックの状態がどのように変化したのかを報告しました。特に点字ブロックの破損など悪化が目立った箇所を各エリアごとにピックアップし報告しました。
前回の調査後に修復された箇所もありましたが、修復後新たに問題が見られた箇所も多々あり、修復作業が行われていてもそれ以上のスピードで点字ブロックの状況悪化が進んでいる状況でした。点字ブロックの上を自転車や車で通らないなどのマナーを浸透させていきたいです。

### スロープ調査

自作の分度器

共通教育棟周辺のスロープの位置や角度、現状を把握し、気づきや改善案と併せて結果を報告することで環境改善につなげることを目的に実施しました。調査では車いすを用いて利用者目線での調査を意識しました。共通教育棟のスロープは最小幅が十分確保されている一方で、傾斜については急なものや上るのに注意が必要なものが半数以上あるという報告ができました。

### バリアフリー調査（車いす）

今回は生協中央ショップ・ボーノ・きらら・図書館について、車いすの利用を想定して利用しやすい点、問題点及び改善案を報告しました。今回の調査では特に各施設でのサービスの利用の観点に重きを置きました。各施設、一般の利用者へのサービス提供との兼ね合いなどありますが、ハード面で解決が難しい点についてはソフト面でカバーしていくことが有効であると共有できました。

**問い合わせ先**
**山口大学　学生特別支援室(SSR)**
利用時間：10:00～18:00（土日・祝日を除く）
場所：共通教育本館1階　就職支援室横
TEL：083－933－5256
E-mail：shien@yamaguchi-u.ac.jp